社會經濟體系

9

日本評論社

社會經濟體系

第九卷

ソフィストと我國の現代思潮

田中耕太郎

一

輓近哲學に關する智識が普及し哲學史が一般の興味を引き着けてゐる時代に當り、或は一般哲學史に於て、或は其れと關聯を持つ宗教思想史、政治思想史、法律思想史の如き各範域に於て、如何に度々我々はソフィストとソクラテスとの對立を讀ませられざるを得なかつたか。我々は一方ソクラテスに於てソフィストの業績の繼續及び完成を見ると共に、他方兩者間の根本的差異を看過することを得ぬ。勿論此の點に關する根本的考察は專門の哲學史家なり又宗教思想史家、政治思想史家等に任せる外はないのであるが、然し現代思潮殊に我國現代の思想界の風潮の中に棲息する我々は、特別の興味を以て此の哲學史の最初に於ける意義ある對立を回顧せしめらるるのである。而して若し我々が一方現代社會生活の要求を或る程度まで是認し、對立せる諸思想に意義を見出しながら、而も其思想の潮流に無批判的に惑溺せずして、既に一應獲得せるものをして眞に我々のものたらしめ、雜音囂々たる不調和を轉じて整然たる統一的なるシムフォニーたらしめ、現存の地盤を一層堅固なるものを以て代へ、思想的にも學問的にも又社會生活上に於ける實際的試みに於てもよりよき方角に向はんことを欲するならば、此の對立の眞の意義を回顧することは極めて緊要事に屬するものと云は

ざるを得ぬ。歴史は繰返すと人は云ふ。而して其れが繰返へさるるときに其れは其の時代の社會狀態、學問の分化發達の狀況に應じて甚だ複雜なるヴァリエーションの形を採る。然しながら其の複雜性の故に我々は其の根柢に存在する基調を見誤らざるを要する。蓋し人間性は到る處又何時の時代に於ても同一であり、其れより出づる簡單なる主題（テーマ）は常に繰返さるるのである。

二

ソフィストは希臘思想史上に一種不思議な地位を占むる。ソフィストと呼ばれし人達に關して、彼等が單に詭辯や揚足取りを仕事とした不眞面目の徒、學問や道德の基礎の破壞を企てた不敵漢でないと云ふことに就てはヘーゲル、グロートを初め諸家の見解が漸く一致するに至つたやうである。寧ろ彼等の希臘文化の發達への貢獻は何人と雖も否定し得ないものがある。波斯戰爭以後希臘が學問的に、思想的に、政治的に及び經濟的に長足の發達を遂げ、偉大なるペリクレス時代の光輝燦爛たる文化を現出し、而してソフィストは此の舞臺を背景に、此の地盤の上に於て活躍したのであつた。而して其の活動の中心點は其の前後の哲學者に比肩し得べき深遠なる哲學思想にもあらず、又パルテノンの殿堂、フィヂアスやプラキシテレスの彫刻の如き造形美術の粹にも非ず、ソフォクレスやエウリピデスの如き深酷なる悲劇にも非ずして、主として德及び政治思想の普及を內容とし、雄辯術を其の敎育方法とする啓蒙運動に存してゐた。

ソフィストが興味を持つたのは、其れまでの自然哲學者達の大體の傾向とは異つて人間、社會及び國家の問題であり、此の點に於てソフィストは波斯戰爭の結果希臘人の眼界が空間的にも又時間的にも擴大せられ

智識欲が復興、更新し、傳統的なる信仰及び學問に滿足を見出し得ざりし民衆の要求に投合するものがあつた。ソフィストなる人士は實に斯かる時代の產物に外ならぬ。其れ故にソフィストは勿論自ら單なる演說家や民衆教育家を以て任じてゐるに止らず、新しき文化の開拓者、新なる學問の炬火を掲ぐる者としての抱負を有してゐた。彼等は紀元前五世紀に於ける上述の社會狀態の激變の結果餘程衰へて仕舞つた希臘人の傳來の、法律や國家が神の權威に由來すると云ふ說を破壞せんと試みた。其の仕事は改革の提唱、革命の主張であつた。而して彼等はペリクレス時代の啓蒙運動の指導者であつたが、嚴格に云へば彼等は指導者と云ふよりも利口にも民衆の欲求の浪にうまく乘り當てた者であつた。

此の故にソフィストは「人は萬物の尺度なり」との思想に於て、經驗的なる個人を神に置き替ふることに依り民衆に阿諛した。斯かる態度を採るに於ては政治思想上國家理念の如きものは勿論問題にならずして、單なる現實肯定に至らざるを得ぬ。人類は無制限に自己の利益を主張する利己的なる個人の集合より成る。此の故に强者の權利のみが支配する。或は現實國家を辯護し其の國家内の支配階級に媚び、或は個人の絕對の無拘束を主張して社會的弱者に媚びるに至つた。出發點が或は集團的であれ或は個別的であれ、經驗的人間であることに於ては一つであつた。

彼等の思想は眞理其のものの追求に對する情熱からは出てゐなかつた。彼等は自覺して虛僞を云はなかつただらうが、眞理に對する冷淡さと無頓着さとは其の共通の特色であつた。彼等は主觀主義者であり相對主義者であり又懷疑主義者であつたが、其の主義の主張にも徹底する所がなかつた。學問的及び體驗的の確信

を有せずして或ることを主張する者の弊は、其の主張の動機が功利的從つて職業的になり、其の主張の方法はソクラテスがアテネの市場や街路に於て爲せし如く一人一人をして眞に確信せしむるよりも――何となれば自分すら或ることに對する確信を持たぬのだ――形式論理で大衆を説服せんとするやうになる。斯かる皮想的集團的の敎育、其の趣く所は、其の方法たるや大向ふの喝采を博する表面的なる雄辯術（レトーリツク）であり、其の結果たるや眞理發見の努力の喜びに於て結合する人圈ではなくして、共通の利害の周圍に蝟集する黨派である。

誠にソフィストの用ふる手段が雄辯術に存し、其れと彼等の思想の傾向とが有機的なる關聯を有し、當初のソフィストが之を以て恰も新なる陸地の發見の如く得意がり、演説を其の長き故を以て誇り、其の Virtuosität にまで上達した魔法的能力の自覺に陶醉し、彼等に於て雄辯術が最大の科學（Wissenschaft）の地位を僭するに至つたのは故なきに非ずである。皮想的なる政治的興味に支配せらるる啓蒙の過程にある社會に於ては必ずや雄辯術の跳梁するを見る。ソクラテスは實にソフィストの雄辯的 Virtuosentum が一種のディレッタンチズムに外ならぬことを看破したのである。要するに雄辯術はソフィストに於て其れ自身目的として追行せられた。是れ希臘文化の最大汚點でなくて何んであらう。

民衆の最も歡迎する所は普遍妥當的なる客觀性を有する立場よりの嚴格なる批判ではなくして、具體的事情に應じ結論を異にする、最大限度に個性を重んずる相對的判斷である。啓蒙の過程にある人間は得て主觀主義、相對主義、懷疑主義に最も共鳴し易い。而してソフィストに依り學問が初めて民衆的となりし事實と其の思想の傾向殊に其の無神論的宣傳と雄辯術との間には密接なる關聯が存在するのである。

彼等の主張は一見ラディカルで、傳統反抗的である故に民衆の人氣を博したが、客觀的の價値判斷を有せぬ故に却つて十分ラディカルでもあり得なかつた。ソフィストは其の文字が示す如く「物知り」であるが、其の智識はディレッタンチズムに過ぎず、道德的なるもの、本質に突入し得ないで、常識的なる素朴さの外被の下に隱れたソクラテスの其れが遙に本質的であり、徹底的に近代的で、複雜性を持つてゐたのである。彼等は相對主義者であり懷疑主義者であつて事物に就き確信を有せざるに拘らず、先づ自らを知ることを企てずして有限なる歴史的比較的の智識を誇り傲慢であり主觀主義者であつた。」

我々はソフィストの功績を否定するものではない。ソフィストとソクラテスとは同一なる時代精神の地盤の上に立ち、同一なる問題を取扱つた。然しながら兩者は其の方向に於て全く異つてゐる。彼れに於ては平面的、分量的であり、是れに於ては垂直的、性質的である。ソクラテスがソフィストの業を繼續せるものと云ふは文化史的考察であり、本來はソクラテズがソフィストの業の完成と云ふすら當らぬ位である。其れは未だ形骸のみに止まつた文化への新なる生命の注入であつた。」

三

歐洲戰爭に因つて經濟的に俄かに富裕になつた我國は、文化的にも多くの獲物を蓄積した。獨佛の爲替相場の下落に因つて戰前には容易に手を出し得なかつた總ての專門の範圍に及ぶ外國の高價な書籍が種々の內容の思想と共に十把一束を爲して輸入せられ、其等は手當り次第に飜譯せられ又通俗雜誌の飜譯的論文の形に於て直接民衆に接觸するに至つた。無數の留學生や官吏は歐米諸國を遍歴し、各自思想乃至感想のお土產

を齎らし、或は講壇に於て、或は著書論文に於て其れを發表し宣傳するに汲々たるものがあつた。此のことは哲學、自然科學、技術、藝術殊に繪畫彫刻及び音樂等文化の全範圍に亙るが、就中國家、法律及び經濟思想に於て著しかつた。彼れに於ける長年の星霜を閲し具體的の要求から出た諸の文化、諸の思想は、我れに於てエキゾーチックに一時に時ならぬ百花爛漫の觀を呈するに至つた。

廣義に於ける社會科學は傳統的なる經濟學、及び少數の先覺者の說を除いて法條註釋の法學以外には、明治時代及び大正の前半まで自然科學の發達の蔭に隱れてゐた。然しながら大戰以後の經濟狀態、殊に勞資間の緊張せる關係の現實的及び思想的解決は經濟學の新なる意味の勃興を要求した。其の他國家理論に於ても傳統的なる國家觀念は多元的國家論に置き替へられ、又法律學に於ても形式論理の末に走る傳統的概念法學法條註釋學は失脚して自由法學及び所謂「法の社會化運動」に席を讓つた。

總ての範圍に亙つて視野が著しく擴張せられた。歷史的、比較的、人種學的研究、經濟的社會學的考察は社會科學の總ての分科に珍重して利用せられた。此れ皆人間の社會生活の多樣雜多なる事實への着眼である。此の多樣雜多性のみに眩惑せらるるとき、人は總ての時代、總ての場所を通ずる萬古不易の眞理の存在を疑はざるを得ぬ。斯くの如きことの歸結は主觀主義、相對主義及び懷疑主義である。或は勇敢に社會理想を否定し現實の刻々の需要の滿足、其の時々の勢力に追從し、或は社會理想を云々するも內容なき形骸に止り、確信ある立場から社會生活に對する嚴正なる批判を加ふるものではない。何となれば是れ大衆の要求と正に逆行する所であるからである。懷疑的なることが學者的なるかのやうに思料せらるる。懷疑は學問の出發點

であり到達點であるべきでないのに拘らず。此の故に社會問題を論ずる者、勿論必要である社會生活の現實の研究には可成熱心であるが、更に必要なる理想に就ては頗る自信を缺き、斷ずるに怯である。―斯くの如き情勢に於て經濟學及び社會學が其のポピュラリチーに於て學問中に於ける王座を占むるに至つた。此等の學問は啓蒙の過程にある人間に最も近き易きものであり、而して啓蒙的人間は其等を社會科學の首位に置き、他のものをして其等に隷屬せしめんとするに至る。極端なる非哲學的、無神論的傾向である。過去十數年間の哲學の普及及び各科學に對する影響も、大ざつぱに云へば智識欲に出で哲學に對する要求が生活又は思索のごん底から湧き出でたものでない故に、大體に於て確信なき無頓着、概念の遊戲、ディレッタンチズムに止り、實生活に對して無力であり、結局上述の傾向と其の種類を同うするものと云ひ得る。

斯くの如くにして我國思想界は其の內容に於て波斯戰爭以後ペリクレス時代の希臘に於るソフィストの風靡に相似的のものを有する。而して此の相似は形式に於ける類似卽ち智識階級の民衆接觸の手段が矢張雄辯術たることに依りて完成する。明治の末葉に於て一時當時の青年を引つけてゐた政治家を摸倣した感傷的なる雄辯術に眩惑されないだけには現在の民衆は進步してゐる。又新智識を求むる民衆の範圍も雄辯術では到底不十分な位擴張せられた。ソフィストの雄辯術の代用を勤むるものは現代に於ては印刷の技術の驚嘆に價する發達を利用したるジャーナリズムであり、之れに依りて執筆者は數千數萬の未知の讀者と接觸するのである。其れは一方出版業者に巨利を博せしむると共に、執筆者の爲めにも有利なる職業となり、斯くして思想家や學者は「研究室より街頭へ」の標語の下に自己の勞作の品質を或は大量生產の通弊として粗惡ならしめ、

或は民衆に迎合することに依り其れに對する指導的立場を捨つるに至る。其の社會的影響たるや推して知るべきのみ。

斯くの如きは夫れ一つの社會が低級なる文化狀態より、眞に文化の名に價する高級なる其れへ向ふために必然的に通過せざるべからざる過渡的形態とも云ふべきか。ソフィストのあらゆる短點に拘らず、其の長所即ち文化的貢獻が近時に於て承認せられたる如く、我々も社會科學者の學的業績及び社會思想家の民衆啓發の功績を認むるに吝なるものではない。然しながら其れは其の上にこそよき文化が生育すべき地盤であり、或る目的の爲めに變質せらるべき素材であることを忘れてはならぬ。其れには二つのものの本質的差異を自覺することが必要である。啓蒙期にある人間は、ファウストに云つてある如く「兎に角いろんな物を恐ろしく澤山讀んでるので」あつて、其の劇中のヴグネルの如く「俳優が牧師の師匠になつても宜しい」と云ふやうな氣の利いた言句は知つてゐるが、「どうせ君の肺腑から出た事でなくては、人の肺腑に徹するものではない」との主人公の詞に對し雄辯法の研究で以て成功する外はないと答へる程度である。主人公の深酷なる惱みに理解洞察、更に進んで批判力を持つことを何うして望み得よう。

今や我々は社會思想上に於て此のヴグネルの程度から進出しなければならぬ時期に在る。我々は正に、道德的なるものの本質に對する深き洞察、及び敬虔なる信仰に依りてソフィストの外面的文化に魂を吹き込んだ、希臘人には珍らしい牧神に似て不細工な、然も善良さと朗らかさとが其れより溢れてゐるソクラテスの童顏を想起しながら彼れの人格を知り、彼れの哲學を學び直さなければならぬ時期にある。（昭和二年七月十三日）

第九卷目次

一家一言

ソフィストと我國の現代思潮……………………田中耕太郎

本文

英國派社會主義（第一回、未完）……………………河合榮治郎……一
ユートピア社會主義（第一回、未完）……………………土田杏村……二九
無政府主義（完）……………………室伏高信……五九
消費組合（第一回、未完）……………………本位田祥男……九七
財政統計（第一回、未完）……………………汐見三郎……一一七
露西亞社會誌（完）……………………今井時郎……一四三

试读结束，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

植民政策（完）……………………………東郷　實……一七
日本經濟史（第二回、未完）……………本庄榮治郎……一三五
正統派經濟學（第四回、完）……………アルフレッド・アモン……二三七
外國貿易問題（第二回、完）……………堀江歸一……二九一
小作問題（第二回、未完）………………小平權一……三四一
電氣事業（完）……………………………松永安左エ門……三六一

雜纂

文獻紹介
マルキシズム書目の書目……………………大塚金之助……四二一
◇執筆者略歷……………………………………四三三
◇編輯だより……………………………………四三五

英國派社會主義

河合榮治郎

英國[illegible]社會主義

[illegible]島衆[illegible]譯

[illegible]

英國派社會主義

河合榮治郎

はしがき

既に題して英國派社會主義と云ふ以上は、社會主義の學派の中に、英國派なる別種のものが存在することを前提としてゐる。然し此のことは現在に於て必ずしもすべての人が當然に認めてゐることではない。今でも社會主義即ちマルクス主義なりと、二つを同一視してゐるものの多い我國に於て、社會主義でありながら而もマルクス主義に屬しない學派のあることは容易に首肯されない。かゝる立場よりすれば、世界の社會主義の中に、英國派なる別種の流派を認めえないことになるであらう。」

然し此のことは決して現今の我國のみではない。少からざる獨逸の學者が又之と類似の見方をしてゐる。例へばウェルネル・ゾムバルトは近著「プロレタリアの社會主義」に於ても、社會主義をマルクス主義と同一視し、千八百八十年代以後に於て、英國の勞働運動が社會主義的になつたことを、英國がマルクス主義的になつたこと、してゐる。彼は之に次で英國社會主義の特異性を擧げてはゐるものの、それは私共からみれば極めて瑣末な點で、根本に於てマルクス主義を英國の社會主義と看做してゐることに變りはない。此の點に於てゾムバルトも亦、社會主義に英國派なるもの、存することを明確には認めてゐないのである(註一)。更に又カール・ディールは其の著「社會主義、共産主義及び無政府主義」に於て云ふ。

若し英國の勞働運動がマルクス主義の方向に、更に進むかどうかを問ふならば、之を客觀的に批判して、斷じて其の然らざることを云ひ得る。世の何物よりもマルクスの學説ほど非英國的のものはない、此の學説は英國の地盤に於て何等の根據を据ゑえないであらうと。此の點に於てディールは英國社會主義の特異性を認めたもので、ゾムバルトに比して一歩を進めては居るにしても、彼は更に此の言に次で、英國勞働者を支配するものは、高き賃銀と短き時間を求むる現實政策なりと斷定し、恰も一方にマルクス主義を置き他方に現實政策を置き、之を何れか選ぶべき兩者として、マルクス主義を採らざるが故に、それは當然に現實政策を採るものだと云ふ論理を辿つてゐる（註二）。然し此の點に於て、マルクス主義を採らずして、然も高き賃銀と短き時間の現實のみに墮するに非ざる社會主義の一路が、ディールの場合にも明確には認識されなかつたやうである。

今私は社會主義に就て優れた著作を公にした二名の學者の説を引用した。彼等は共にマルクス學徒に非ざるが故に、公明に各國社會主義の特異性を認めうべき地位に在るに拘はらず、彼等に於てすら、社會主義に於ける英國派の特異の傾向が充分に認識されてゐないことが略分つたであらう。況んやマルクス學徒の間に於ては、社會主義即ちマルクス主義と速斷して、此に英國派社會主義に獨自の體系を認めえないのは、止むを得ざる當然のこと、云はざるをえないであらう。

然るに英國自體に於ける社會主義者は、常に自國の社會主義が固有のものであり、毫もマルクス主義と交渉なきものなることを力説してゐる。例へば現勞働黨首領であり又社會主義團體たる獨立勞働協會（Independent Labour Party）の指導者なるラムゼー・マクドーナルド氏は、次の如くに獨立勞働協會の主義を説明してゐる（註三）。

ブラッドフォードの第一回大會に於て通過した我が協會の憲法は、生産分配交易の手段の共同所有と共同管理とを宣言した。………獨立勞働協會はかくて常に社會主義者であつた。それは級階鬪爭や經濟的決定論の如きぎごちない説明をもつマルクス主義のやうな、ぎごちない獨斷的な學派には曾て屬したことはなかつた。………我が協會

は假令マルクスに負ふ所は有るにしても、決してマルクス的ではなかつた。「餘剩價値」說が誤れるであらうことを認め、「唯物史觀」が不備たることを認めてゐた。又更に「階級鬪爭」は資本主義關係の記述としては眞實であらうとも、社會主義への改造に對しては、何等の指針となるものではない。我々は上述したるが如きより單純な又より確實な地盤の上に地歩を占めた。マルクスは彼の時代に流行せる思想傾向に順應せる社會主義の說明方法を用ひた。然し社會主義は今も尙依然として其の必要を保持するが、之を說明に用ひたマルクスの思考方法は今は既に時代遲れとなつてゐる。

獨立勞働協會は、英國勞働運動に於ける左翼に位するもので、何人も之を社會主義的團體と認めないことは出來ない。而して同國の運動の思想的指導力として重要の役目を果してゐるものである。此の團體の原理を此に說くマクドーナルド氏の地位が、いかに顯著なものであるかは今此に特說を必要としない。彼の以上の言は、英國社會主義の特質を無視せしむるには、說く人と說かるゝ團體の性質が餘りに之を許さない。

更に今一つの他の例を引用するならば、フェビアン協會創立者の一人であり、英國勞働運動の智識的中心人物たるシドニー・ウェッブ氏は、次の如くに述べたことがある(註四)。

我々は常に記憶せねばならない、英國社會主義の建設者はカール・マルクスに非ずして、ロバート・オーウェンたりしことを。而してロバート・オーウェンは決して「階級鬪爭」を宣傳はしなかつた、彼の說きたるは、四海同胞の古き敎へであつた。人類同胞の希望と信仰と生きたる事實であつた。其の希望と信仰とは、更に他の偉大なる英國社會主義者たるウィリアム・モリスによつて、其の著「ジョン・ボールの夢」の中に於ける言によつて、再び肯定された所であつた。…………

ウェッブ氏の此の言は、一介の學徒が講壇に於て述べた空言ではない。之は千九百二十三年六月廿六日勞働黨の大會に

此为试读，需要完整PDF请访问